第614号
喬木村公民館：長野県下伊那郡喬木村6664

たかぎ

発行日　2020年5月18日
発行責任者　喬木村公民館長　市瀬　徹
編集責任者　公民館編集部長　仲田久志
印刷　龍共印刷株式会社

本年度　よろしくお願いします！

夢の広がる喬木村で

喬木第二小学校長　北沢　敦

本年度より喬木第二小学校長としてお世話になります、上田市立丸子中学校より参りました北沢敦と申します。どうぞよろしくお願いします。

今、喬木村の夜空を見上げると、たくさんの美しい星がまたたいています。何座を構成する星かさえ分からないような無数の星たちが輝いています。喬木村の自然は美しいです。私の子どものころの夢は、宇宙飛行士になることでした。テレビでスペースシャトルの帰還をわくわくして見たり、虫眼鏡で望遠鏡を作ったり、宇宙のことばかり考えて過ごす時期があったことを思い出しました。

そして今、子どもたちはどんな夢を抱いているでしょう。現在、夢を語ると、実現しなければならないものと思うようにとらえられがちです。もちろん夢を実現できることは素晴らしいことです。しかし、たとえ実現できないとしても、夢は自分を豊かにしてくれる宝物です。実現不可能でもいい。時々変わってもいい。夢を持つことそのものが素晴らしい。地域の皆様のお支えをいただきながら、自分の夢を語れるような子どもたちを育てたいと思います。どうぞよろしくお願いします。

歴史と人々への思いを

歴史民俗資料館館長　宮下　敏英

「変わりゆく
世に色かえぬ　松風の
おとのみ残る
神之峰かな」

これは阿島知久氏初代、知久則直公の歌です。神之峰城跡地に歌碑があります。この歌を詠んだときの則直公の心情を思うと胸が熱くなります……。

この四月から歴史民俗資料館の館長を仰せつかりました上平の宮下敏英と申します。よろしくお願いいたします。

村の資料館は、歴史・民俗・考古の三部門に分類し貴重な資料が展示されています。歴史部門では知久氏の歴史とその展示品を中心に、民俗部門では近世から近代にかけて村内の農家で使われた農具等を中心に、考古部門では縄文時代から古墳時代まで村内で発掘された土器・石器・埴輪などを中心に展示されています。

これらの貴重な資料から、当時の人々の生きた思いを感じられるような展示を工夫すると共に、村の歴史や文化の学習拠点となる資料館にしていきたいと考えています。また、小中学校の社会科や総合的な学習のお役に立ちたいと思っています。

開館日は、火・木・日曜日の午前九時から午後四時です。どうぞ皆様、お気軽にご来館ください。

子ども達のためにできることを

教育委員会学校教育専門主事　林　司

この度、喬木村教育委員会学校教育専門主事として、四月より勤務しております林司です。

自宅は、阿島南で、この三月飯田市立松尾小学校を定年退職しました。

私の主な担当は、保小中の連携と一貫教育の推進、学校教育相談（不適応児童生徒支援、副学籍対応、就学判定等教育支援事務）、学力向上・ICT教育など学校運営全般への支援です。

小中学校に伺い、児童生徒の皆さんや先生方と面談・相談を重ねていきます。保護者の方々との相談もあると思います。

喬木に居を構え、二十一年が過ぎました。私の子ども達も、自然と人情豊かな喬木の小中学校で楽しく過ごさせて頂きました。その恩返しも含め、これまでの経験を生かし、喬木の子ども達と先生方のお役に立てればという思いでおります。

どうぞ、よろしくお願いいたします。

春のお花見

公民館活動自粛のため紙上お花見です

第二小学校の桜

八幡社近くの水仙

椋記念図書館下のしだれ桜

帰牛原の花桃

あの時この時

四月中旬から大阪のスポーツ用品店が、医療従事者支援のチャリティTシャツの販売を始めた。三千五百円でTシャツを買ってもらい、仕入れ価格を引いた残りの二千円でマスクなどを購入し、医療機関に送っている。普段は各地のサッカーチームからのユニホームの受注販売をしているが、コロナの影響で売り上げは昨年の三割程度まで落ち込んだ。さらに、指導しているサッカーチームの活動も休止しており、「お金的には今までで一番しんどい」と代表の川元さんは言う。

医療機関で働く教え子の保護者から現場の厳しい状況を聞き、毎年卒団式で言ってきた「しんどい時だからこそ、みんな困っているからこそ、誰かのために何かをできる自分であれ」という言葉を自ら実行すべきだと考えたと言う。Tシャツを製作したのはコロナの影響で経営に苦しんでいた町工場。医療機関に届けるマスクにはチームの子どもたちが、「お医者さん、がんばって」などの応援メッセージを一箱一箱書いて届けている。「赤字覚悟で始めたプロジェクトだが、お金だけじゃないってことをコロナが教えてくれた。今は生き甲斐になっている」と言う。

医療機関で働く人が届いたマスクを目にすれば、これ以上ない勇気をもらえるのではないだろうか。川元さんの熱い思いに触れ、様々な形でこのプロジェクトに関わっている子どもたちは、きっと計り知れないものを得ていると私は思う。（館長）

再生紙　シュールコート70Ｋ　を使用しています。

シリーズ むかしの公民館報

新型コロナウィルス感染症拡散防止のため、本館や各分館の行事を自粛している中、自宅で時間を持て余すことも多いと思います。本号より、これまで発行された公民館報に掲載された記事を紹介することにしました。今月は第三七五号平成十二年一月二十七日発行から、首長と語る二〇〇〇年を紹介します。

新春対談 首長と語る2000年

平成十二年一月九日、公民館編集部では新春恒例の賜村長との新春対談を行いました。

地方分権が推進され、特色ある自治体運営が求められつつも広域連合等新たな行政形態が展開しようとしている現在、村としてどのように二〇〇〇年を迎え、来る二十一世紀に備えるかが課題となっています。

平成七年から始まり平成十六年まで十ヵ年間実施予定の喬木村の総合振興計画はちょうど半分経過し、あと五年になりました。生活環境整備を中心にハード面の充実は図れたと思います。これからは美しい地域・安心社会の構築等ソフト面での充実が期待されます。そのあたりにどう取り組むかを公民館編集部木下温司部長がお聞きしました。

木下　おめでとうございます。まず二〇〇〇年という区切りの年の年頭に当たっての村長さんの抱負をお聞かせ下さい。

21世紀に向けて

賜　おめでとうございます。新しい二〇〇〇年という千年紀を迎え、かつ来年の二十一世紀にむけていつもとは違う、非常に感動した年末年始であったように感じます。特に喬木村では元旦に実行委員の皆さんが感動的なすばらしいイベントをやってくれ、みんなで心を合わせ万歳をしながら初日の出を迎えた時の感動は、これからの二〇〇〇年時代、毎日を心新たに暮らしたい、そんなことを強く思いながらすばらしい正月であったことを嬉しく思っております。今年はきっと良いことがあるに違いない、もしなければみんなで心を合わせて良い年にしたいと心新たに決意しました。そのようなことを踏まえ、次の三つを抱負とします。まず村民一人一人が心身共に健康であって欲しい。二つ目は今までの人間社会の反省から、心豊かな人間社会を構築しなければならない。三つ目は平和で安全な社会を構築することをみんなで努力しなければならないということです。

特に一九〇〇年代は、戦争で明け暮れた時代であった気がします。戦争の歴史を振り返ると、産業が発展し科学が進歩し、利便性は増した反面人間の命が余りにも軽んぜられてきたような感じがします。二十一世紀は人間が人間を殺すというような経済戦争・宗教戦争は無くすべきだと強く感じました。

つまり健康・平和・人権を重んじ、支え合う幸せを通じ先人からの連綿と受け継がれた人の道・心の教育の大事さを強く思いました。

たかぎ短歌会 卯月歌会詠草

世の中は時が止まりしごと疲弊す　木下　寿子
コロナ禍は当たり前なる日日奪う
マスク外して笑える日は何時

新型コロナの恐怖重たし　桐原　邦夫
ラジオより惜別の歌流れ来る
コロナ戦争不安な日日に

桜咲き季節外れの雪が降る　小椋　りよ
夢持つ女孫旅立ちの朝

沈丁花のしるき香りに救はれて　知久　美子
ショートステイの真昼間を過ぐ

雨の日に肥料と粉糖ふりやれば　関島　春子
冬菜は甘く青青育つ

春となり昔勤めし中学校　市瀬　准子
仁能田の丘も桜咲き満つ

ケイタイの操作忘れどこの頃は　内山　和子
受信の時だけ自信持ちたり

息や孫にバレンタインのチョコ選ぶ　木林　睦枝
斯かる時間も楽しみとして

彼の国の凄まじきまでの発展に　元島　康子
恐ろしささえ覚ゆこの頃

お悔やみの報せの追伸マスクして　田中　妙子
精進落しも直会もなし

精進落しも直会もなし　福澤　亀人

新型コロナウイルス対応 自宅で学習する子どもたち

新年度を迎えて、児童・生徒はそれぞれの新しい環境での新学期生活が始まっています。

本来なら新しい学びや遊びを同級生や沢山の友達と一緒にすることを楽しみにしていたはずです。しかしながら新型コロナウィルス感染予防のため、自宅での学習を余儀なくされています。

早くからＩＣＴ教育に取り組んできた当村では、タブレット端末を使用した自宅学習もできる環境もあり、有り難く感じています。一方で子供達は度重なる休みの延長に動揺しているようで、家庭や地域による学びの環境の格差や、友達に会えない不安を抱えて生活している様子です。保護者としても一刻も早い終息と以前の生活を取り戻せるようにと祈っております。

普段より当たり前であった生活のひとつひとつを見つめ直し、常に感謝をもって事にあたる様、子供たちを導く大きな機会と捉え、家庭や地域や企業が一体となってこの難局を乗り越えていければと願います。

（編集部）

公民館報第４輯が完成しました

公民館報の平成十八年十月発行第四百五十一号から平成三十一年三月発行第六百号までを集約しました第四輯が完成しました。今回はＤＶＤに画像として収録した物となり、一枚千円で販売しています。数量限定で百枚製作したところ、村内の大勢の皆さんから注文を頂きましたが、若干在庫がありますので、注文できなかった方は是非この機会に公民館事務局までお申し込み下さい。在庫がなくなり次第終了とさせていただきますのでお早めにお申し込み下さい。また、福祉センター、図書館で本を見ることができます。

（電話三三―二〇〇二）

編集後記

新型コロナウィルス感染の拡大を受けて、各地で様々な行事が中止や延期となった。各地区で受け継がれてきた伝統的な春の祭典も、残念ながら中止となった。寒い冬を耐え忍び、心待ちにしていた春の訪れ。窓の外に目を向けてみると、咲き誇る花々の様子が、どことなく足早に過ぎ去っていくように感じる。営業自粛を要請された企業も少なくない。ゴールデンウィークを迎えた当地域においても、例年のような観光客の入りは見込めない。一方、飲食店を応援するクラウドファンディングの立上げや様々な動きが始まりつつある。この先に必ず訪れる出口があるはず。各自ができることを蓄積し最高の準備期間にしよう。